

明治期電灯会社の「従事者」についての若干の資料

東定, 宣昌
九州大学大学院博士課程

<https://doi.org/10.15017/13546>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 1, pp.13-17, 1973-05-08. エネルギー史研究会
バージョン：
権利関係：

明治期電灯会社の「従事者」についての若干の資料

東 定 宣 昌

電力産業は科学原理の発見に後行する電気技術の発展を敷石にして成立したすぐれて近代的なエネルギー産業である。わが国では明治十六年（一八八三年）二月十五日東京府知事より設立許可を受けた有限東京電灯会社を起点とするが、それは当初から実質的株式会社制度をとり、資本の有機的構成も極めて高く、同じエネルギー産業といっても労働集約的な採取産業である石炭産業との懸隔は大きい。しかし、だからといって電力産業の労働者が無視されてしまつてよいわけでもないであろう。ところが電力産業史を対象とする多数の論著は著名な技術者の事蹟・伝記を除いては、必ずしも多くの点にふれていないのではないかと思われる。ここでは極めて不十分な資料渉猟の中で電力産業「従事者」について目にとまった若干のものをノートして後日の覚えとしておきたい。

覚一

(1)

(a)有限責任熊本電灯株式会社定款（明治二四年開業当時）

「第四十五条 当会社役員ノ給料ハ左ノ如シ

社長 月給 三十円以下

取締役 月給 二十円以下

監査役 一ヶ年報酬 三十円以下

技師 月給 八拾円以上百五十円以下

(2)

(a)長崎電灯株式会社 第二回決算及營業報告（明治二六年四月一日〜十二月三十一日）

「本社員ハ取締役三名監査役三名及ヒ左ノ職員ナリトス

事務員	四名	毎月ノ給額	金貳拾壹円五拾錢
技術員	拾壹名	毎月ノ給額	金百拾七円拾錢
合計	拾五名		金百卅八円六拾錢

(b)同損益勘定支出ノ部抜萃

「一金三百三拾六円〇壹錢六厘 事務所員給料

支配人 同 貳拾円以下
 事務員 同 拾五円以下
 技術員 同 貳拾五円以下
 手代 同 拾円以下
 ※九州電気五十年史 七〜一三頁。

(b)熊本電灯会社「従事員」（明治二五年頃）

「社長一、相談役三、取締役四、技師一、支配人一、事務員三、技術員十一、常夫五、都合二十九名
 ※熊本電気株式会社沿革史 一二頁。

人員		職名	人員		職名
支社	本社		支社	本社	
—		部長	—		社長
四	一三	書記	1	六	取締役
一	三	雇	1	三	監査役
一	一	小使	1	一	相談役
六	一八	計	1	一一	計

(4) 博多電灯会社 職制 (明治四十二年一月末)

(b) 同損益計算書支出ノ部抜萃
「一金參百四拾貳円參拾六錢 報酬給料

雇 七名
運 轉 手 一名
技 士 長 一名
事 務 員 三名
監 査 役 三名
取 締 役 五名
當 期 末 日 重 役 及 社 員 ノ 現 在 數 ハ 左 ノ 如 シ

(3)

(a) 日田水電株式会社 第四期明治三十四年下半年營業報告書

「重役及社員

一金貳拾九円六拾壹錢七厘 事務所雜給
一金壹千〇三拾六円六拾七錢六厘 技術部員給料
一金四拾三円四拾壹錢五厘 技術部雜給

※九電鉄二十六年史 一八頁。

人員		職名	人員		職名
支社	本社		支社	本社	
六	一五	電工	—		主 任 技 師
一〇	一一	機手	一	1	技 師
〇	二二	職工雇	1	五	技 手
		計	1	二	技 手 補
一七	五八		1	二	雇

事業別電気事業従業者数

事業	管理者 又ハ会社 社重役	支配人 事務長 又ハ書記	書記 又ハ事務員	主任 技術者	技師	技手	工手	工夫	運轉 監督	車掌	運轉手	軋轍手 信号手	其他	計
電気供給事業	六二	六九	八五	九六	二四	三八七	七三	二八一六	一	一	一	一	四三	六〇〇
電気鉄道事業	五七	九	一〇〇	八	四	四九	三三	四〇九	三八	四五四	一八三	六三	一四〇	一五三七
電気供給及電気鉄道兼営事業	七五	二二	三〇八	九	九	八七	一二九	一六二四	二九〇	二二四	一八七二	四三八	六一五	七六一七
総計	七五三	九九	一二五九	一一三	三七	五二三	八七五	四八四九	三二八	二五九五	二〇五四	五〇二	一、一六八	一、五五四

一、本表ハ事業開始ニ係ル事業者ノミヲ掲ク
 二、技手又ハ工夫以外ノ名称ヲ付スルモ事実之ニ準スルモノト認メラル、モノハ技手若クハ工手ノ欄ニ計上ス
 三、車掌及運轉手ヲ兼ルモノハ車掌ノ欄ニ計上ス

※明治四十年電気事業要覽 一六五頁。

(2)

学歴別事業別主任技術者数

事業	電気供給事業	電気鉄道事業	電気供給及電気鉄道兼営事業	自家用電気事業	総計
帝国大学工科大学 電気工科学科卒業 者	五〇	七	一一	三八〇	△ 九八八
高等工業学校電気 機械分科卒業者	五	一	一	一三四	△ 二三一
工手学校電工科 卒業者	四三	一	一	三四五	△ 七四九
其他ノ学校ニ於テ 電気学ヲ修メタル者	五	一	一	一一〇	△ 一二〇七
電気ニ関スル 学歴ナキ者	九	一	一	一九四〇	△ 一九四九
合計	一一二	九	一三	三九〇	△ 五二九四

学歴別電気別主任技術者数

電気力	十「キロワット」 未満	十「キロワット」 以上	二十「キロワット」 以上	五十「キロワット」 以上	合計
帝国大学工科大学 電気工科学科卒業 者	二四	一一	二	三	△ 二二
高等工業学校電気 機械分科卒業者	一	一	一	二	△ 三
工手学校電工科 卒業者	一〇	一	一	一	△ 二
其他ノ学校ニ於テ 電気学ヲ修メタル者	一九	三	二	二	△ 二二
電気ニ関スル 学歴ナキ者	四六	一	二	一	△ 一七
合計	一四〇	九〇	五九	六二	△ 二二

総計	一萬「キロワット」以上	五千「キロワット」以上	二千五百「キロワット」以上	千「キロワット」以上	五百「キロワット」以上	二百五十「キロワット」以上	百「キロワット」以上
△ 九八	三	五	八	一二	二〇	△ 二七 三七	一二
△ 二一 三一	一	一	一	一	二	七	七
△ 七 四九	一	一	一	二	四	一〇	二六
△ 一 一〇七	一	一	一	二	二	二	一〇
△ 一 四九	一	一	一	一	一	三	八
△ 五 二九四	三	五	八	一七	二八	△ 四 三九	六三

一、△ヲ付セルハ兼務ニ係ル主任技術者数トス
 二、営業用電氣力ノ一部ヲ使用スル自家用電氣事業ノ主任技術者ハ本表ニ之ヲ計上セス

※ 明治四十年電氣事業要覽 一六六、七頁。